

東近江市尻無町「水源の森」 ～いにしへの「長谷掘り抜き」を後世に…～

1 社会資本の概要

布引丘陵の麓にある「水源の森」は、森林部分は私有地、ため池及び麓の部分は農林水産省管轄の国有地であり、地元の東近江市尻無町自治会が国有地も含めて管理してきました。

この場所は、布引川より引水された向山溜が起源



長谷掘り抜き

になります。その後、平成18年に愛知川上流域にある永源寺ダムの農業用水ため池として造成され、以降国有地の一部となり、管理は愛知川土地改良区の管轄下となりました。



農林水産省管轄 「向山溜」

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「水源の森」には、「長谷掘り抜き」と呼ばれる隧道が走っており、この水を農業用水を始め、生活用水として地域における「命の水」として利用されてきました。しかし近年ではダムや水道の普及により、この水の利用がなくなり、その存在すら地域から忘れられている状態となり、それを危惧する声が住民の中で高まりました。

そこで、平成20年7月に「この場所を地域の人々が憩える場所」にし、また、

「将来的には町おこしの拠点として後世に残る場所」になるように整備に協力してほしいとの依頼を

受け、東近江市尻無町自治会と連携し、平成20年から「水源の森」整備事業を展開してきました。

整備にあたり、地域の方々の要望等の聞き取り調査を行い、整備計画を策定し、水源の森の設計コンセプトやデザインについて、地域の方々とワークショップを行い、材料調達や工事計画等を一緒に考えました。また、地元の子供が関心を持てるような空間にするため、「生物多様性」を軸としたビオトープ工事に着手し、自然石の石積みをはじめ、池の掘削等の工事も行い、水辺空間には、カキツバタやアヤメ等の水生植物も植栽しました。



公園計画図



プレゼンテーション発表



ビオトープの造成作業



滋賀県東近江市

滋賀県立八日市南高等学校 緑地（花緑）デザイン科

3 活動の成果や波及効果等

「江戸時代から伝わる地域の命の水を守りたい」という地元の人々の思いを受け、この水を活かし、将来的に町おこしの拠点として後世に残る場所になるような憩いの場所づくりに取り組み、地元自治会の人達との交流が生まれました。



水生植物の植栽作業



植栽後の集合写真

喜びの声



受賞者

滋賀県立八日市南高等学校
緑地（花緑）デザイン科
ランドスケープデザイン班

コメント

本校は平成3年より緑地デザイン科として造園教育を中心とした学習活動に取り組んでおり、現在は平成26年度より花緑デザイン科となりました。

今回の受賞を契機にこれからも、地域に根ざした町づくりや町おこしに取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

活動内容

「水源の森」公園造成、管理など

活動の経緯

平成20年 測量及び計画図の作成
平成21～24年 公園造成・施工
平成24年～現在 維持管理・修復

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

滋賀県東近江市尻無町地内

活動主体及び連絡先

滋賀県立八日市南高等学校緑地デザイン科
※功労者名：武久国松、松井良夫

対象となる社会資本

向山溜（貯水池）：農林水産省
※管理者：愛知川土地改良区
東近江市尻無町自治会

